Matsumoto Dental University
Graduate School of Oral Medicine

1780 Gobara, Hirooka, Shiojiri,
Nagano 399-0781, Japan

第 309 回松本歯科大学大学院セミナー

日　時: 2015 年 2 月 6 日(金) 18 時 00 分~19 時 30 分

場　所: 実習館 2 階 総合歯科医学研究所セミナールーム

演　者: 和嶋　浩一　氏(慶應義塾大学医学部歯科口腔外科学講座・講師)

タイトル: 歯痛の見直し－非歯原性歯痛の理解－

歯痛治療は歯科医師にとって得意中の得意であるはずであるが、簡単な根管治療で治療できると思われている歯痛が治らず、苦しんでいる例がかなりいることが判ってきた。従来から臨床経験によって ENDO 治療は簡単と思っている方から ENDO ほど難しいものはないと感じられている方まで様々であり、ENDO の教科書に歯髄が最高の根管充填材と書かれているのは ENDO の難しさを言いあらわしたものであろう。

口腔顔面痛外来を受診する患者で最も多い主訴は難治な歯痛であり、週に数名の歯痛患者が数軒の一般歯科、ENDO を得意とする歯科医院の治療を経て来院する。簡単なはずの歯痛が難治となっているのは非歯原性歯痛を歯原性と誤って診断し、原因でない歯の治療を無駄に治療していることが大多数である。

歯科における痛み理解の遅れを痛感させられるのは、患者が生活歯に痛みを訴え歯科を受診し、抜髄が行われたが痛みが消えず、根管治療を繰り返すも効果なく、治らないため転院し、数軒の歯科医院で治療を受けた後、最終的に抜歯、既に歯は無くなっているが、抜髄前と変わらぬ痛みが残存し、難治性の歯痛を訴えて来院する患者を診る時である。

従来の歯科における教育では、痛みが感じられる部分に痛みの原因があると考えられていたため、「歯が痛いのは歯が原因」として、歯痛の治療はとにかく歯が対象であった。痛み用語の一つである「異所性疼痛」、痛みが感じられる部分と痛みの原因部分は異なる場合があるという概念は歯科では余り注目されていなかったからである。臨床的事実として、歯髄炎による歯痛を訴える患者が痛みの部位を上下顎間違って訴えたり、肩こりによって頭痛や歯痛が生じ、マッサージによって歯痛も改善したりするように、必ずしも痛みを感じる部分に痛みの原因があるとは限らないことは歯科医師のほとんどが知っている事であるにも関わらず、神経生理学的事実ではなく偶然とされていた。歯原性以外の様々な疾患が原因となり、異所性疼痛として歯痛を生ずる可能性、つまり非歯原性歯痛が理解されていなかった。

Matsumoto Dental University
Graduate School of Oral Medicine

1780 Gobara, Hirooka, Shiojiri,
Nagano 399-0781, Japan

日本口腔顔面痛学会は発足以来、このような状況を改善するために非歯原性歯痛の診断と治療の啓発を主なる学会活動として取り組んできた。しかし、日本口腔顔面痛学会専門医のみが非歯原性歯痛を正確に診断し、治療が出来たとしても、その数は微々たるもの、日本の歯痛診断、治療の平均レベルを上げる事にはならない。今後の活動として、1）学部学生の教育、この点は昨年度以来、歯科医師国家試験出題範囲に非歯原性歯痛が含まれ、学部で教育されているはずである、2）既卒の全ての歯科医師にも非歯原性歯痛を知って頂き、日本の歯痛診断の平均レベルを上げる活動の一翼を担って頂きたいと思っている。

歯痛が難治になっている原因は、1）元々、歯痛の原因が歯原性ではなく、非歯原性歯痛であった場合の他に、2）ENDO の技量不足、3）ENDO により神経障害性疼痛が生じた、4）不可逆性歯髄炎が慢性経過した結果、神経系に不可逆的変化が生じた、などが考えられる。講演では、非歯原性歯痛の解説に加えて、上記の歯痛が難治になっている原因に関しても解説する。実際の症例をビデオで供覧し、非歯原性歯痛の診査、診断の実際を知って頂きたいと思っている。

略歴
1978 年 3 月　神奈川歯科大学歯学部卒業
1978 年 5 月　慶應義塾大学医学部附属病院研修医（歯科口腔外科）
1980 年 5 月　慶應義塾大学助手（医学部歯科口腔外科学教室）
1995 年 5 月　慶應義塾大学専任講師（医学部歯科口腔外科学教室）
所属学会・資格
日本口腔顔面痛学会（理事、事務局長、指導医、専門医）
日本顎関節学会（理事、指導医、歯科顎関節症専門医）
日本頭痛学会（理事、指導医、頭痛専門医）
American Academy of Orofacial Pain（米国口腔顔面痛学会認定医）
Asian Academy of Craniomandibular Disorders (President-elect)

担当：顎口腔機能制御学講座　　金銅　英二